

高等学校における教科指導の充実

国 語 科

「書くこと」の指導の工夫

栃木県総合教育センター
平成18年3月

ま え が き

栃木県では、平成13年度に「とちぎ教育振興ビジョン」を策定し、新しい時代への展望に立った教育計画に基づいて、様々な教育施策を推進してきました。その基本理念は「とちぎ教育振興ビジョン(二期計画)」においても引き継がれ、事業を展開するにあたっての視点の一つとして「学ぶ力をはぐくむ教育の充実」が盛り込まれています。

また、学力に関する国際的な調査や教育課程実施状況調査によって、生徒の学力の状況や学習に対する意識などが明らかにされてきました。これらの調査の報告書においても、学力向上のための提言がなされています。

これらのことから、総合教育センターでは、「高等学校における教科指導の充実に関する調査研究」事業を新たに起こしました。この調査研究の目的は、基礎・基本の確実な定着を図るための授業改善を目指して、教科指導の在り方について研究し、その成果を普及することにより、学力の向上に資することにあります。今年度は、国語科、地理歴史科、数学科、外国語科(英語)の4教科において、教育課程実施状況調査等の調査結果から指摘されている課題を踏まえ、その解決を図るための授業改善の方策等について研究に取り組みました。研究の成果をまとめた本冊子を、各学校の実情に応じて有効にご活用いただければ幸いです。

最後に、今年度の調査研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力委員の方々に深く感謝申し上げます。

平成18年3月

栃木県総合教育センター所長

佐藤 信勝

目 次

はじめに	1
事例 1 目的や場に応じて適切に書く	2
事例 2 アサーティブな表現方法を生かして文章を書く	15
事例 3 「書くこと」の言語活動を通して評論文を的確に読む	27
事例 4 「書くこと」の言語活動を通して小説を的確に読む	32
おわりに	39

「書くこと」の指導の工夫

はじめに

国語科では、教育課程実施状況調査やOECD生徒の学習到達度調査（PISA）等の結果から指摘されている課題を踏まえ、学習指導要領の趣旨に則り、今年度の研究テーマを『書くこと』の指導の工夫」として、研究に取り組んだ。

PISA調査において注目すべきは、OECD平均と比べて、日本の高校生は自由記述問題が特に不得手であり、無答率が際立って高い点である。このことが、読解力に関して、前回（2000年）調査の8位から今回（2003年）調査の14位へと大きく順位を下げたことの主要な原因の一つであると指摘されている。PISA調査における「読解力」とは、「自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参画するために、書かれたテキストを理解し、熟考する能力」と定義されている。この調査のねらいとするところは、学習指導要領で生徒に身に付けさせたいと考えている、資質・能力と相通じるものである。

学習指導要領国語は、「言語の教育」としての立場を重視し、「伝え合う力」を育成することに重点を置いて改善が図られ、領域構成が「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の領域と「言語事項」とに改められている。また、実践的な指導の充実を図る観点から言語活動例（41ページ参照）が示され、その数は高等学校国語科全体で24に上る。

PISA調査で課題とされた「読解力」を育むためには、「読むこと」の指導の改善にとどまらず、各領域にふさわしい教材や言語活動例を調和的に取り上げ、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の指導についても改善し、国語力を総合的に高める必要があると思われる。

以上のことから、今年度は、「書くこと」の言語活動を取り入れた指導の工夫・改善の研究に取り組んだ。各事例で扱った単元は次のとおりである。

事例1 目的や場に応じて適切に書く

伝える目的や場を意識し、効果的な表現を工夫して書く力を育むための指導。

事例2 アサーティブな表現方法を生かして文章を書く

相手の立場を尊重しながらも、自分の考えを的確に伝える力を育むための指導。

事例3 「書くこと」の言語活動を通して評論文を的確に読む

「書くこと」に関する言語活動を通して、評論文の論理の展開や要旨を的確にとらえるための指導。

事例4 「書くこと」の言語活動を通して小説を的確に読む

「書くこと」に関する言語活動を通して、小説の人物、心情などを的確にとらえるための指導。

<研究協力委員>

栃木県立足利女子高等学校	教諭	砂金	麻理子
栃木県立足利商業高等学校	教諭	篠崎	晃江
栃木県立高根沢商業高等学校	教諭	谷中	委代

<研究委員>

栃木県総合教育センター	研究調査部	指導主事	吉澤	正光
-------------	-------	------	----	----

事例 1

目的や場に応じて適切に書く

1 育成を目指す言語能力

本単元は、伝えたい内容を正確かつ簡潔に書くという言語能力を育成するために計画したものである。「国語表現」の学習指導要領の指導事項の「ウ 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して話したり書いたりすること。」を指導の中心に取り上げ、「目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して書いている。」という評価規準で評価する。言語活動例の「ウ 相手や目的に応じて、案内、紹介、連絡などのために話をしたり文章を書いたりすること。」を参考に、「逆クロスワードパズルを作る」「折り紙の折り方を説明する」「地図情報を文章で表現する」「短い文で的確に書く」などの言語活動を通して、その能力を育成する。

日本語に関する最近のテレビ番組や出版物の流行に表れているように、国民の日本語に対する関心は高い。それだけ、多くの国民が正しい国語の使い手になりたいという願望を持っているのであろう。

生徒の多くも、「書くこと」に抵抗を感じたり苦手意識をもったりしている。彼らが「書くこと」を苦手とする理由には、読書量の不足による語彙不足、書く機会や学習の不足による技術不足などが考えられる。授業で「書くこと」についてアンケートをとると、「書く材料がない」、「書きたいことがない」、「文字数の多い文章は書けない」、「書き方が分からない」などといった回答が少なくない。一方で、最近の生徒は、携帯電話でのメールのやり取りに象徴されるように、私的で身近なコミュニケーションは得意である。それでいて公的で社会的なコミュニケーションは不得手である。学校は本来公的な場であるが、そのような意識が薄い生徒も多く、HR日誌の記述にも、私的なメールで交わされるような記述が見られるようになった。そのような生徒も、自分自身の言語に関する知識や技能を向上させたいという思いは持っている。ここではゲーム感覚で親しみながら取り組むことができるような活動を設定して、「書くこと」への関心・意欲を喚起しつつ、目的や場に応じて適切に書く能力を育成したい。

2 学習活動の概要

(1) 単元名 目的や場面に応じて適切に書く（6時間）

(2) 単元の目標

目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して書こうとする態度を身に付ける。

（関心・意欲・態度）

目的や場に応じて、適切な表現を用いて書く力を高める。

（書く能力）

国語の表現の特色について理解を深める。

（知識・理解）

(3)単元の評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して書こうとしている。	目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して書いている。 説明や案内や紹介のための文章などを書くとき、目的に応じた情報の選択をしたり文字の使い方の工夫などをしたりして、社会的な実用のための文字表現を使っている。	修飾・被修飾の関係などの語句の構造や、身近な言語生活の場面で用いられる語彙の特徴や構造を理解している。

(4)指導と評価の計画（6時間）

* 努力を要する生徒への手だて

時間	学 習 活 動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1 2	逆クロスワードパズルを作ろう クロスワードパズル[資料1]の解答を導く「カギ」の文を作る。 4人グループで話し合って最も良い「カギ」の文を選び、清書用紙に記入する。 1問ごとに、「カギ」の文とその設定の理由を発表する。 学習を自己評価により振り返る。	解答を導く簡潔で適切な表現を工夫させる。 「カギ」作成上の留意点を確認する。 ・ 1問につき25字以内。 ・ 解答者を高校生以上と想定して、簡単過ぎず含みのある表現を工夫する。 * 必要に応じて国語辞典等を参照させる。 * 作問例[資料2]等をもとに示唆を与える。	書く能力、知識・理解 (ワークシート[資料1]の記述の確認、発表内容の分析)
3	折り紙の折り方を説明しよう ワークシート[資料3-1]及び[資料3-2]の図に合わせて折り紙の折り方を説明する文を書き、説明書を作る。 4人グループで話し合って文を吟味し、最も良い説明文を清書用紙に記入する。 学習を自己評価により振り返る。	説明の対象が幼児と大人とでは表現の仕方が変わるので、ここでは幼児を持つ保護者の世代を読み手に想定して書かせる。 * 実際に折り紙を折り、作成の行程を確認しながら文章化させる。 * 説明の例[資料3-2]をもとに示唆を与える。	書く能力、知識・理解 (ワークシート[資料3-1]及び[資料3-2]の記述の確認)

時間	学 習 活 動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
4	<p>地図情報を文章で表現しよう</p> <p>ワークシート1[資料4]の例になら、A～Dの地図のうちの一つについて、ワークシート2[資料5]に最寄りの駅から試合会場までの道案内の文章を書く。</p> <p>各自が説明に使わなかった地図について説明した友人と、ワークシート2を交換して、互いの書いた説明文をもとに、略地図を描く。</p> <p>で交換したワークシート2を戻し、説明の的確性を検討し、必要に応じて推敲する。</p> <p>学習を自己評価により振り返る。</p>	<p>部活動のチームメートを読み手に想定して書かせる。</p> <p>地図上の方角、目安となる交差点や施設等に着目し、情報の質や量を適宜取捨選択させる。</p> <p>* 上記の留意点について、具体的に例を挙げて検討させる。</p>	<p>書く能力、知識・理解 (ワークシート2[資料5]の記述の確認)</p>
5 6	<p>指定された語を使って短い文章を書こう</p> <p>ワークシート[資料6]で指定された語を使って、できるだけ短い文で的確に書く。(個人学習)</p> <p>4人グループで話し合って内容を吟味し、清書用紙に記入する。</p> <p>分かるやすい広告になるように推敲しよう</p> <p>ワークシート[資料7]の文章を推敲する。(個人学習)</p> <p>4人グループで話し合って内容を吟味し、グループとして1つの広告文を作り、清書用紙に記入する。</p> <p>グループごとに、推敲した広告文と推敲の理由を発表する。</p> <p>学習を自己評価により振り返る。</p>	<p>言葉を自由に使いこなす技術を身に付けさせる。</p> <p>* 関連する語句どうしをグループ化させて文章化させる。</p> <p>「指定された語を使って短い文章を書こう」で学んだ書き方を応用させる。</p> <p>修飾・被修飾の関係、一文の長さ等に着目させる。</p> <p>* 意味のまとまりごとに文を区切って考えさせる。</p>	<p>書く能力、知識・理解 (ワークシート[資料6・7]の記述の確認)</p>

「関心・意欲・態度」は、単元全体を通して評価する。

3 評価の例

「逆クロスワードパズルを作ろう」「折り紙の折り方を説明しよう」「地図情報を文章で表現しよう」の学習後の自己評価に、次のような記述が見られた。

「逆クロスワードパズルを作ろう」の学習後の自己評価

- ・問題文をいくつかの候補から選ぶときに、どれを選ぶか悩んだ。読み手に理解できて、簡単に解けないようにするのは難しかったが、楽しかった。
- ・問題を作ると小学生が書くような文章になってしまった。表現力がとても必要だと思った。
- ・問題を作るにはボキャブラリーが必要だと思った。
- ・簡単な言葉についての問題ほど考えるのが難しかった。発想が大切だと思った。

「折り紙の折り方を説明しよう」の学習後の自己評価

- ・自分は分かっていることでも、それを文章で表現して読み手に分かりやすく伝えるということは、意外と難しかった。文章を書くときには、どう書いたら伝わるかを考えなければいけないということが分かった。
- ・何かを説明するときに、短い文でも的確に表すことはけっこう大変だった。これから文章を書くときには、相手のことをよく考えて書こうと思う。
- ・自分では気付かなかった表現を、友人から指摘されて分かることがあった。

「地図情報を文章で表現しよう」の学習後の自己評価

- ・目の前にある地図を説明するのが、こんなに難しいとは思わなかった。
- ・会話ならば質問ができて説明不足の点を補えるけれども、文章ではそれができないから、じっくり考えて書いた。書く練習になった。
- ・ただ文章を書けと言われると、どう書いていいか分からないけれども、地図の説明のように、書く目的がはっきりしていると、取り組みやすかった。

これらの自己評価に表れているように、「関心・意欲・態度」の評価に関しては、おおむね満足できると判断されるものが多かった。特に、読み手を意識して書こうとする意欲の高まりが感じられる。

4 成果と課題

(1)成果

今までの「書くこと」の指導を振り返ってみると、「何を書くか」ということは指示しても、単に字数や原稿用紙の枚数をノルマとして書かせるだけで、「どう書くか」ということを指導しないまま書かせるようなことがあった。また、書く目的や場の設定を明確にしないまま書かせるような指導もあった。さらに、生徒の作品を完成品としてその良し悪しを評価するにとどまってしまうがために、生徒にとっては、学習活動が能力の向上の実感を伴わないということもあったように思われる。

そのような点で、目的や場面や相手を意識して書かせるというこの一連の事例は、指導者にとっては指導の改善の一方策となった。生徒にとっては、目的や場面や相手を意識して書くことで、どのように書けば伝わるのかということが、実感を伴って理解できたのではないと思われる。原稿用紙に向かって嫌々書くこともなく、楽しみながら、自分から工夫して文章を練っていく姿勢が、生徒の「書く能力」を高めることにつながると感じられる。

また、「書くこと」の指導にグループ学習を取り入れたことによって、生徒が多少なりとも視点や発想の広がりを実感できたことが、今後の表現活動に生かされるのではないだろうか。題材

や学習集団によっては、書いた内容を友人に読まれることに抵抗感を示すこともあるが、この事例のように、実用的な場を想定して書く活動であれば、生徒の主体的な取組を導きやすい。

なお、HR日誌の生徒の所感欄に、読み手を意識した記述が見られるようになったことも、この学習で育まれた「書く能力」が、運用面で発揮されていることの一つと言えよう。

(2)課題

この単元の指導は、短い文で書くことが中心の活動であったが、この後の小論文指導等においても、書かせたものをだけを評価するのではなく、自己評価や相互評価を効果的に取り入れるなどして、形成的な評価をその後の指導に生かすよう、工夫改善を加えていくことが必要である。

参考文献

- ・田中孝一・西辻正副編著『評価規準が授業を変える！ 高校国語の評価規準と実践例』明治書院
- ・大平浩哉編著『「国語総合」授業の工夫20選』大修館書店
- ・北川達夫 フィンランド・メソッド普及会『図解 フィンランド・メソッド入門』経済界

参考URL

- ・Yahoo!地図情報 <http://map.yahoo.co.jp/>

逆クロスワードパズルを作ろう

資料 1

() 組 () 番 氏名 ()

次のクロスワードパズルについて、例にならって、タテのカギ ヨコのカギ を作ってみましょう。

1	ヒ	ナ	タ	ボ	ツ	コ	■	5	ミ	ズ	6	カ	7	キ		
	ヤ	■	8	イン	ガ	■	9	ア	ネ	■	10	タ	キ			
11	ク	12	■	13	サイ	14	ホ	ウ	■	15	ト	ツ	■			
	■	16	ヤ	17	サイ	■	18	テ	ン	19	ト	ウ	ム	20	シ	
21	キ	ン	ク	■	22	ト	イ	■	ク	■	23	リ	ク			
24	ス	プ	リ	ン	グ	■	25	ケ	イ	カ	■	ラ				
	ウ	■	ヤ	■	27	ロ	28	ケン	■	29	オ	30	ウ	メ		
	■	31	タ	ク	32	ミ	■	33	ム	カ	34	デ	■	35	チ	ン
36	イ	ン	■	37	ミ	38	ドリ	■	39	ミ	ツ	ド	■			
40	ヌ	レ	41	ネ	ズ	ミ	■	42	ク	セ	■	43	コ	44	シ	
45	イ	ン	コ	■	46	ノ	ゾ	キ	■	47	ト	ロ	ロ			

19	17	15	14	12	9	7	6	5	4	3	2	1	
.	

タテのカギ

1. 一足飛びに進歩すること。

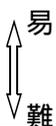
* このクロスワードパズルはフリーソフトを利用して作成したものである。

「カギ」作成上の留意点

- ・ 1問につき25字以内で簡潔に書く。
- ・ 解答者を高校生以上と想定して、簡単過ぎず含みのある表現を工夫しよう。

例 「ヨコ1のカギ」

ひなたで暖まること。
ひだまりで暖まること。
日光が当たる所でくつろぐこと。



44	42	41	38	36	34	32	31	30	28	26	25	22	21	20	
.

ヨコのカギ

- | | |
|--------------------|-----|
| 1. 日光が当たる所でくつろぐこと。 | 27. |
| 5. | 29. |
| 8. | 31. |
| 9. | 33. |
| 10. | 35. |
| 11. | 36. |
| 13. | 37. |
| 15. | 39. |
| 16. | 40. |
| 18. | 42. |
| 21. | 43. |
| 22. | 45. |
| 23. | 46. |
| 24. | 47. |

逆クロスワードパズルを作ろう（作問例）

資料2

（ ）組（ ）番 氏名（ ）

次のクロスワードパズルについて、例にならって、タテのカギ ヨコのカギ を作ってみましょう。

1	ヒ	ナ	タ	ボ	ツ	コ		5	ミ	ズ	カ	キ				
	ヤ		8	イン	ガ		9	ア	ネ		10	タ	キ			
11	ク	12	ジ		13	サイ	14	ホ	ウ		15	ト	ツ			
		16	ヤ	17	サイ		18	テン	19	ト	ウ	ム	20	シ		
21	キン	ク		22	ト	イ		ク		23	リ	ク				
24	ス	プ	リン	グ		25	ケ	イ	カ			ラ				
	ウ		ヤ		27	ロ	ケン		29	オ	ウ	メ				
		31	タ	ク	32	ミ		33	ム	カ	34	デ		35	チ	ン
36	イン			37	ミ	ドリ		39	ミ	ツ	ド					
40	ヌ	レ	ネ	ズ	ミ		42	ク	セ		43	コ	シ			
45	イン	コ		46	ノ	ゾ	キ		47	ト	ロ	ロ				

- 19 17 15 14 12 9 7 6 5 4 3 2 1
- タテのカギ
- 1 一足飛びに進歩すること。
 - 2 慶事の料理に付き物の魚。
 - 3 日本のガーデニング。
 - 4 結婚して一緒にいる動物。
 - 5 山の頂。
 - 6 漢字で「蝸牛」と書きます。
 - 7 ピンチ。
 - 9 二人の息がぴったり合っています。
 - 12 スキー複合競技で「距離」とセットになっている。
 - 14 七福神の一人で、大きな袋を持っている。
 - 15 学者の研究室を「象牙の」とも言う。
 - 17 相手をだますための手。
 - 19 苦手ではありません。

- 44 42 41 38 36 34 32 31 30 28 26 25 22 21 20
- ヨコのカギ
- 20 別名「豚の饅頭」。
 - 21 2では割りきれない数。
 - 22 蛇が巻くもの。
 - 25 両成敗になります。
 - 26 これをつぶされると面目ない。
 - 28 火のないところには立たないもの。
 - 30 これが悪いととても痛い。
 - 31 体力や精神力を鍛え抜きます。
 - 32 下手な字の形容に使われる下等動物。
 - 34 露店のこと。
 - 36 北西を干支で表すと。
 - 38 西洋カルタの一種ですが、倒すことにも使われます。
 - 41 小判の使い方を知らない動物。
 - 42 木の幹に当たる草の部分。
 - 44 犯人ではない。

ヨコのカギ

- 1 日光があたる所でくつろぐこと。
- 5 河童の手足にはこれがあるとのこと。
- 8 前世の悪業の報い。
- 9 同じ親から生まれた年上の女性。
- 10 汗がどっと流れる形容に使われます。
- 11 「あみだ」「宝」に共通するもの。
- 13 針や糸が必需品です。
- 15 出っ張りのこと。
- 16 肉や魚も必要ですが、これも必要です。
- 18 背中に水玉模様のある虫。
- 21 言ってはいけない言葉。
- 22 屋根の雨水を集めて流します。
- 23 地球上の約3割に当たります。
- 24 「バネ」または「春」のこと。

- 25 結果はまだ分かりません。
- 27 秘密や悪事がばれること。
- 29 マラソンで有名な東京の市。
- 31 構造。
- 33 「百足」と書く節足動物。
- 35 皇帝や天皇の自称。
- 36 漢詩などで踏むもの。
- 37 時には「青」とも形容される色。
- 39 詰まっている度合い。
- 40 服を着たままず濡れになること。
- 42 誰でも最低七つはあるという。
- 43 麺類には欠かせません。
- 45 オウムに似た熱帯産の小さい鳥。
- 46 光源氏の時代は「かいま見」と言って、合法でした。
- 47 麦飯と相性のいい料理。

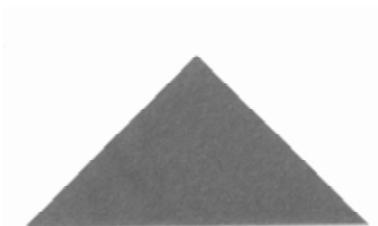
折り紙の折り方を説明しよう

()組()番 氏名()

出版社に勤務することになったAさんは、折り紙の本を編集することになりました。Aさんになり代わって、1～14のそれぞれの写真に合うように、の中に説明の文を書き入れてみましょう。

セミの折り方

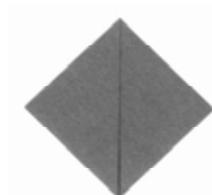
1



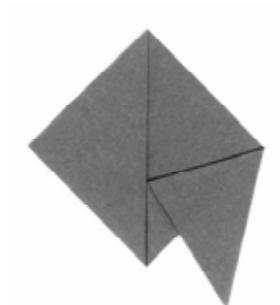
2



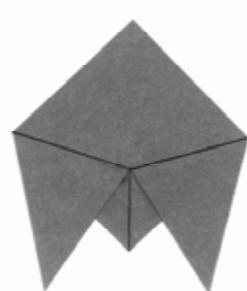
3



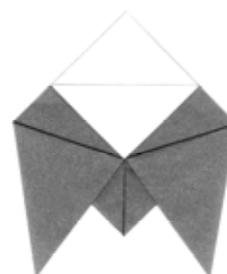
4



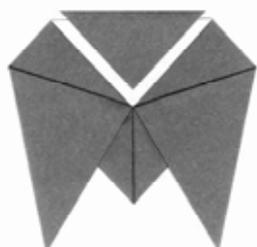
5



6



7



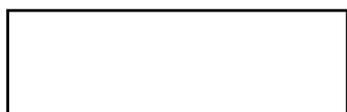
8



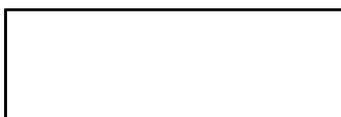
9



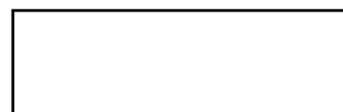
10



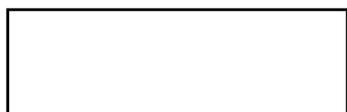
11



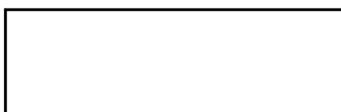
12



13



14



自己評価（この学習を通して感じたことを自由に書いてください。）

説明の例（ワークシートの配付時には示さない）

- 1 半分(三角形)に折る。
- 2 上部の頂点に合わせて、右側を三角に折る。
- 3 左側も2と同じように折る。
- 4 右角を軸に下の方へ斜めに折る。
- 5 4と同じように左角を軸に下の方へ斜めに折る
- 6 上の一枚だけを手前に折る。
- 7 6で折った白い部分が少しだけ見えるように、もう一枚を折り重ねる。
- 8 裏返す。
- 9 半分に折る。
- 10 9を開く。
- 11 真ん中の折り目に合わせて折る。
- 12 左側も11と同じように折る。
- 13 12を裏返す。
- 14 上部の両端を内側に折り込んで完成。

地図情報を文章で表現しよう（ワークシート1）

資料4

()組()番 氏名()

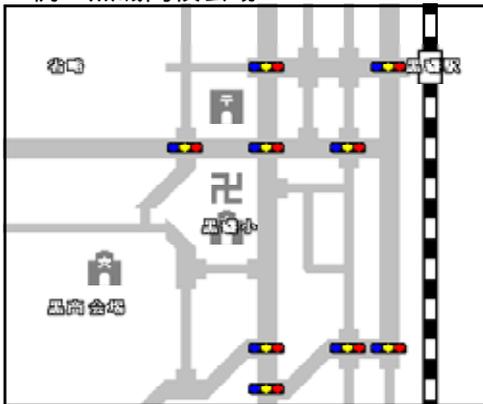
部活動の試合が、高校を会場に行われることになりました。試合の当日の朝、会場に向かっていたあなたは、チームメートのAさんからのメールで、会場の最寄りの駅から会場までの道順を携帯電話のメールで教えて欲しいと頼まれました。Aさんは会場近辺の地理に不案内の上、顧問の先生から配られた地図を家に置き忘れてしまったのだそうです。

問1 会場の地図の情報を読み取り、最も分かりやすいと思われる道順を、例にならって、簡潔に文章で説明しなさい。文章は、ワークシート2の「問1の解答欄」に記しなさい。

授業では、生徒一人につき、地図A～Dのいずれか一つを印刷したものを配布し、説明させる。

著作権の都合上、ここではフリーソフトを利用して作成した略地図を示しているが、授業では「YAHOO! MAPS」から1/8000の地図をダウンロードして使用した。

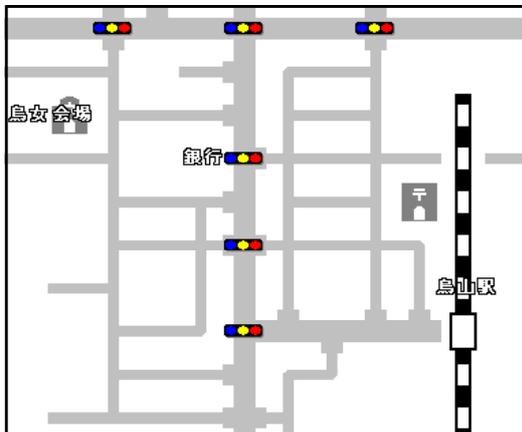
例 黒磯高校会場



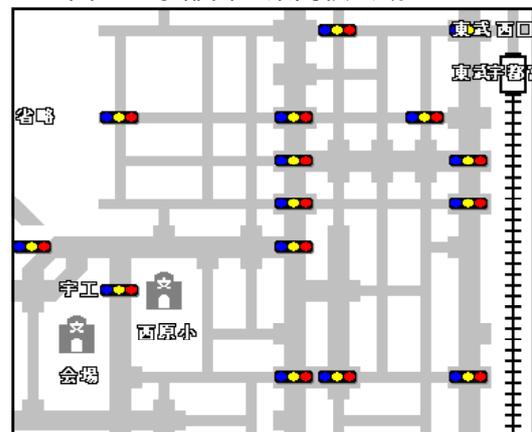
解答例

黒磯駅を出て正面の道を真っ直ぐ進み、駅前の信号から数えて、二つめの信号を左折します。次の信号を右折します。その次の信号を左折し、道なりに進むと正面に黒磯高校があります。

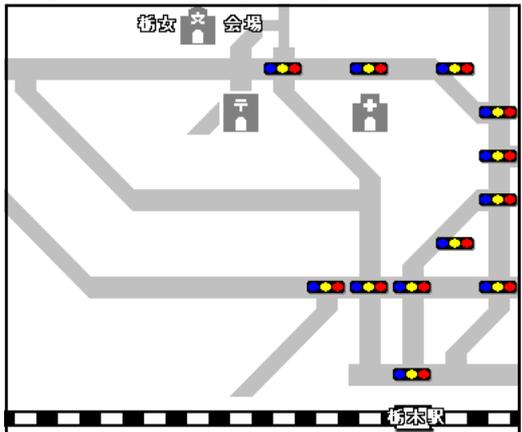
地図A 烏山女子高校会場



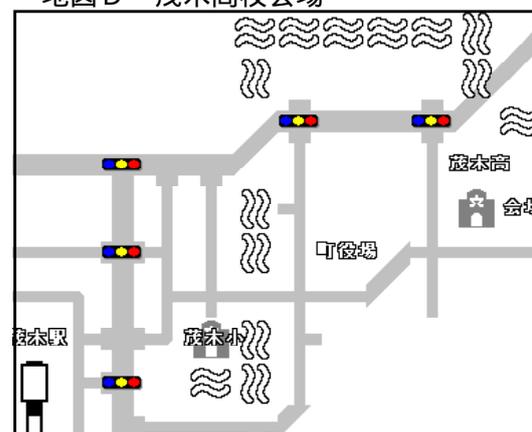
地図B 宇都宮工業高校会場



地図C 栃木女子高校会場



地図D 茂木高校会場



文章から略地図を再現しよう（ワークシート2）

（ ）組（ ）番 氏名（ ）

問1の解答欄

次に、自分が説明に使わなかった地図について説明した友人と、このワークシートを交換しなさい。

問2 友人の書いた問1の地図の説明だけをもとにして、最寄りの駅から会場までの略地図を描きなさい。

略地図を描く人（ ）

--

無事に目的地までたどり着けるでしょうか。お互いにワークシートを交換して、文章と地図を照らし合わせてみましょう。もし、目的地までたどり着けないような説明だったら、誤解を招いた表現や分かりにくい表現がないかどうか検討して、推敲してみましょう。

自己評価（この学習を通して感じたことを自由に書いてください。）

指定された語を使って短い文章を書こう

()組()番 氏名()

次の例にならい、後のA～Cのそれぞれについて、 中の語を全て使い、できるだけ短くて、なおかつ不自然でない文章を書いてみましょう。文の数は任意です。用言は活用させて使っても構いません。

例

安全 求める 障害者 実現 暮らす バリアフリー すべての人
社会 高齢者 安心

高	齢	者	や	障	害	者	だ	け	で	な	く	、	す	べ	て	の	人	が	安	20
全	に	安	心	し	て	暮	ら	せ	る	バ	リ	ア	フ	リ	ー	社	会	の	実	40
現	が	求	め	ら	れ	て	い	る	。											60

A

毎日 便利 着る 発揮 学校 制服 個性 洗濯 悩む 私服

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100

B

作る 弁当 栄養 費用 偏る 暖かい 負担 学校給食 冷める
保護者

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100

C

若者 コンビニ 規範意識 座る 呼ぶ ホーム マナー 迷惑
羞恥心 他人 欠ける 床 駅 感じる ジェタリアン

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100

D

現在 支える 増加 批判 人件費 フリーター 社会参加 雇用者
問題 対象 採用 産業 ニート 日本 抑制

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100

自己評価（この学習を通して感じたことを自由に書いてください。）

分かりやすい広告になるように推敲しよう

()組()番 氏名()

次の 中の文章は、某レストランに就職したAさんが、店長に命じられて書いた、店の広告文の原稿です。店長に見せたところ、もっと分かりやすい文章にするように言われました。

当店は、江戸前の魚介類など四季折々の新鮮な素材を創意工夫にあふれた個性的スタイルに仕立て上げた旬の味覚が楽しめる風光明媚な海岸通りに面した片田舎の和風レストランです。

問1 Aさんは、店のどのような点をお客さんにアピールしたいのでしょうか。箇条書きで抜き出し、関係のあることどうしをグループにしてみましょう。

問2 あなたがAさんに代わって書き直すとしたら、どのように推敲しますか。問1で整理したことを推敲の視点として生かして、分かりやすい文章に直してみましょう。

自己評価（この学習を通して感じたことを自由に書いてください。）

事例 2

アサーティブな表現方法を生かして文章を書く

1 育成を目指す言語能力

本単元は、相手意識や目的意識を明確に持ち、それらに応じた効果的な表現を用いて書くという言語能力を育成するために計画したものである。「国語表現」の学習指導要領の指導事項の「ウ 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して話したり書いたりすること。」を指導の中心に取り上げ、「相手意識や目的意識を持って、用件とそれに関わる自分の思いや意見を伝えることができるように、効果的な表現を工夫して文章を書いている。」という評価規準で評価する。言語活動例の「ウ 相手や目的に応じて、案内、紹介、連絡などのための話をしたり文章を書いたりすること。」を参考に、「相手の立場や意向を尊重しながら、自己の思いや意見を適切に書く」という言語活動を通して、その能力を育成する。

総合教育センターが平成17年6月に実施した「インターネット・携帯電話に関するアンケート」調査によると、本県の高校2年生の携帯電話の所持率は94.8%である。携帯電話の機能の中でよく利用する機能は、「メール」が94.7%で最も多く、次いで「通話」の72.4%となっている。また、「友達・知人からのメールを読んだとき、いやな気持ちになったり、失礼だと感じたりしたこと」が、「よくある」と回答した生徒が3.4%、「ときどきある」が35.0%となっており、ほぼ4割近い生徒が、友達・知人からのメールを読んで不快感を味わった経験があることが分かる。

一般社会でもネット上のメールのやり取りに起因した事件が生じている状況を考えると、相手意識や目的意識を明確に持ち、それらに応じた効果的な表現を用いて書くという言語能力の育成が、一層重要になっている。

本単元は、第3学年の2学期に実施した。教材「トカ弁 - 婉曲表現の現在」(俵万智著)を使用し、会話における婉曲表現には、「相手の意向を尊重し気遣う繊細な感覚」、「互いに立てあう『和』」があることを確認したあと、このコンセプトを、非言語間コミュニケーションに頼れない「書き言葉によるコミュニケーション」で生かす術を学習させる。「話し言葉」と「書き言葉」の違いを認識させ、「書き言葉によるコミュニケーション」の特徴や心構えも学習させる。就職や進学を間近に控えた生徒に、相手や目的に応じた「書き言葉によるコミュニケーション」の能力の育成を図る。

なお、この指導に当たっては、対人関係における効果的な話し方のトレーニング法として取り入れられているアサーション^{*1}(自分も相手も大切にしたい自己表現)の手法を、書くことの指導法として参考にした。

* 1 アサーションとは、自分も相手も尊重しようという精神で、自分の気持ち・考え・意見・希望などを、率直に正直に、しかも適切な方法で表現すること(アサーティブな自己表現)をいう。ただし、相手を優先し、とりあえず自分のことは後まわしにする表現(非主張的な自己表現)や、自分を優先し、自分だけを大切にして、相手が眼中にない表現(攻撃的な自己表現)は、アサーションには当たらない。なお、辞書にはアサーションの意味として「主張」「断言」などの言葉があるが、トレーニング法としてのアサーションは、単純な自己主張以上の、より幅広い意味を含んでいる。平木典子 日精研心理臨床センター企画『アサーショントレーニング - さわやかな 自己表現 のために - 』金子書房、園田雅代・中釜洋子 日精研心理臨床センター編『子どものためのアサーション(自己表現)グループワーク 自分も相手も大切にしたい学級づくり』金子書房

2 学習活動の概要

(1) 単元名 アサーティブな表現方法を生かして文章を書く (6 時間)

(2) 単元の目標

相手の立場も自分の立場も尊重しながら、自己の思いや意見を書く態度を身に付ける。

(関心・意欲・態度)

相手意識や目的意識を持って、用件とそれに関わる自分の思いや意見を伝えることができるように、効果的な表現を工夫して書く力を高める。

(書く能力)

アサーティブな表現方法を理解し、書くために必要な知識を身に付ける。

(知識・理解)

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
相手の立場も自分の立場も尊重しながら、自己の思いや意見を伝える態度を身に付けようとしている。	相手意識や目的意識を持って、用件とそれに関わる自分の思いや意見を伝えることができるように、効果的な表現を工夫して文章を書いている。	婉曲表現の効用を理解して、語彙として身に付けている。アサーティブな表現方法を理解し、書くために必要な知識を身に付けている。

(4) 指導と評価の計画 (6 時間)

時間	学 習 活 動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1 2	アサーション度チェックリスト 資料1で自分のアサーション度を確認する。 アサーションについて理解する。 「トカ弁 - 婉曲表現の現在 - 」 (俵万智) を読んで、会話における婉曲表現を確認し、表現者の背後にある心理を理解する。 婉曲表現の意図を考える。 資料2	アサーション度の診断は、あくまでも目安であることを確認する。 婉曲表現は自分と相手との間に共感・協調・和をもたらすための表現であることに気付かせる。	知識・理解 (ワークシート資料2の記述の確認)
3	「書き言葉」におけるアサーティブな表現を学習するために、「話し言葉」と比較して「書き言葉」の特徴を知る。 不快感を与えるメール等を読み、「書き言葉によるコミュニケーション」の特徴について話し合う。 待ち合わせに遅れている相手に対するメールの文章を作成し資料3、自分の文章の特徴を認識する。 作成した文章からアサーティブな表現を読み取る。	「話し言葉」と「書き言葉」の違いを明らかにし、相手の反応に対する即座の言い直しなどができない「書き言葉」では、「話し言葉」に比べて言葉のすれ違いが起きやすいことに気付かせ、すれ違いを回避するための工夫について考えさせる。 どのような時に誤解が生じるかを確認させる。 日頃交わすメールのように自由に作らせる。 特に付属語の部分や絵文字に婉曲表現の工夫があることに気付かせる。	知識・理解 (ワークシート資料3の記述の確認)

時間	学 習 活 動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
4	<p>ワークシート「角が立たない丁寧な表現」資料4の問題を解き、助詞や文末表現の工夫がもたらす効果の違いや、相手に配慮した表現を理解する。</p> <p>前時の で作成したメールを、公的な場面設定でのメール（書き言葉のみ）に書き表す際の留意点や表現方法等について、グループで話し合う。</p> <p>前時 の待ち合わせの設定を変えたワークシート資料5に、書き言葉だけでメールの文章を書く。作品を発表する。</p>	<p>「書き言葉」における婉曲表現について考えさせる。</p> <p>絵文字と話し言葉は使わない、敬語を用いるという条件で行わせる。</p> <p>『ちょっとしたものの言い方』からアサーティブな表現例をプリントして配付し、言語が担う役割（表情・抑揚・微妙なニュアンス）を文字化する際の参考にさせる。</p> <p>互いの作品の良い点や改善点に気付かせる。</p>	<p>書く能力 、知識・理解 （ワークシート資料4の記述の確認）</p> <p>書く能力 、知識・理解 （ワークシート資料5の記述の確認）</p>
5	<p>公的な場における、謝罪、依頼、催促等の文章をアサーティブに書く時の注意点を理解する資料6。</p> <p>「書き言葉」における婉曲表現を知る。</p> <p>依頼文の「型」を学ぶ資料7。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 順不ぞろいになっている文を、「型」に従って並べ替える。 ・ 状況設定を変えて書き直す。 <p>「書き言葉によるコミュニケーション」の特徴・注意点を再確認し、礼に叶った文にするために「型」を活用することを知る。</p>	<p>第3時のノートを確認させ、「書き言葉によるコミュニケーション」を確実にするために「型」が役立っていることを理解させる。</p> <p>相手を気遣う「書き言葉」による巧みな表現を学ばせる。</p> <p>ノートを確認させながら、「書き言葉によるコミュニケーション」の定着を図る。</p>	<p>書く能力 、知識・理解 （ワークシート資料7の記述の確認）</p>
6	<p>二人組になり、一方が某社の社員、もう一方がその取引先の社員という設定で、ある状況を想定し、互いに相手に出す公的な文書を作成し、交換する。</p> <p>受信した文書に対する回答文書を作成し、交換する。</p> <p>文書を相互評価する資料8。</p> <p>本時の学習活動を自己評価により振り返る資料9。</p>	<p>Webサイトの文書作成用フリーソフトを使用する。</p> <p>状況は任意に設定させる。</p> <p>状況に応じた「型」を選び、適切な表現ができる力を身に付けさせる。</p> <p>「型」を活用して用件を伝えることで、文書によって意思の疎通が図れることを理解させる。</p>	<p>書く能力 、知識・理解 （作成した文書の記述の確認）</p> <p>書く能力 、知識・理解 （作成した文書の記述の確認）</p>

「関心・意欲・態度」は、単元全体を通して評価する。

3 評価の例

次の資料のうち、左上の「私的なメールの文章例」は、第3時「待ち合わせに遅れている相手にメール打つ(その1)」[資料3](#)の学習活動で、自由に作らせた私的な場面における生徒のメールの例である。他の生徒も、ほとんどがこの例のように、絵文字や顔文字を駆使して書いていた。

生徒A～Cの例は、第4時「待ち合わせに遅れている相手にメール打つ(その2)」[資料5](#)の学習活動における、会社員の立場で書いた生徒の作品例である。生徒Aの例は、「連絡をもらいたい」という要望を、相手の立場に配慮しつつ適切な文章で表現しており、「十分満足できる」と評価した。生徒Bの例は、「お待ちしている」という部分についての謙譲語の使い方が不十分な点と、「早めの連絡を」という部分の尊敬語の使い方が不十分な点にやや難がある。しかし、全体としては相手の立場に配慮した表現であると認め、「おおむね満足できる」と評価した。生徒Cの例は、尊敬語と丁寧語を使ってはいるが、相手の立場への配慮に欠ける表現で、催促がましくかかっているため、「努力を要する」と評価した。

発表を通して、生徒は互いの文章の良い点や改善点を確認した。

私的なメールの文章例

おーい☺
今どこ居る?☺
モー 20分くらい待ってマスクが公☺
連絡くらいしてよー!!!
何してるん?☺ 帰っちゃうよ?
早く連絡しろー!!!

十分満足できると判断される例(生徒A)

今どちらにいらっしゃいますか。
20分ほどお待ちしております。
何かトラブルでもございましたでしょうか。
ご都合が悪くお悪いようでしたら
打合せは後日に延期いたします。
お手数ですが、ご連絡いただくと
幸いです。

おおむね満足できると判断される例(生徒B)

恐れ入ります。
今どちらにいらっしゃいますか。
20分程お待たししているのですが、
連絡頂けないでしょうか。
ご都合が悪くお悪いようでしたら、
また後日お会いするということ
でいかがでしょうか。
お手数ですが、なるべく
早めの連絡をお願ひ致します。

努力を要すると判断される例(生徒C)

今どこにいらっしゃいますか
後とめくらいで 到着までとか
私は20分間 待っています
早くお越し下さい。

次は、第6時の活動における相互評価資料8、及び自己評価資料9の記述例である。これらの例から、アサーティブな表現方法への理解や、「関心・意欲・態度」が高まりつつある様子が見て取れる。

相互評価資料8の記述例

の「読んだ印象」について

「A たいへん良い」に関する記述例

- ・「文書デザイン」の授業で勉強した表現を生かしている。
- ・文全体がすっきりしていて読みやすい。
- ・要点がまとまっていて読みやすかった。
- ・何を伝えたいかがはっきり書いてある。

「B 良い」に関する記述例

- ・言葉遣いが丁寧で、相手への気遣いが感じられた。
- ・あまり刺激しないように遠回しの表現を使っている。
- ・伝えたいことがはっきり書いてある。

「C あまり良くない」に関する記述例

- ・言葉が足りない気がする。
- ・何についての文書か、題名がないため分からない。

自己評価資料9の記述例

- ・相手のことを考えて書くのは難しいと思いました。自分の意志を伝えつつ、相手にも良い印象を与えるのは難しいと思いました。
- ・相手を刺激しないように書くことの難しさが分かりました。今回はお手本を少し変えただけなので、自分の力で書いたことにはなりません。これからは自分で書けるように勉強したいと思います。いつもと違う授業でおもしろかったです。
- ・謝るときに、直接でなく紙に書かれた文章でも伝えることはできるのだと分かった。これからどこかに就職すれば、依頼状や詫言状などを書く機会があるかも知れない。そういう時のために文章の書き方を学んでおきたい。
- ・自分の言い分をしっかりと伝えつつ、相手へも配慮して書くことは大変だと思う。でも、これができるれば、普段の会話でも相手への配慮ができるようになると思った。
- ・社外文書には色々な種類があるのを知って驚きました。自在に使えたら便利だと思います。

4 成果と課題

(1)成果

言語活動の工夫によるねらいの明確化と指導法の改善

「アサーション」の概念を取り入れた言語活動によって、相手意識や目的意識を明確に持つて書くことの大切さを、生徒に強く意識させることができた。また、相手意識や目的意識に応じた表現を工夫して書くことを、効果的に指導することができた。

「型」を利用して伝達文を書くことの効用や方法の理解、及びアサーティブな表現方法を生かして文章を書く技術の習得

生徒の「書き言葉によるコミュニケーション」の能力を高めるために、「話し言葉」との違いや特徴を理解させることも大切である。「書き言葉」による伝達文等は相手の手元に残るた

め、それを書く際に、文章としての正確さや礼に叶った表現が、「話し言葉」以上に求められる。大人社会では、伝達文等を書く際に、先人の経験や知恵から作られた「書き言葉」としての「型」や敬意表現を活用している。手紙文の学習の際にも、「型」を利用して書くことは学習したが、本単元では、公的な立場でメールや文書を作成するという学習活動を通して、「書き言葉」による婉曲表現、「型」を利用して伝達文を書くことの効用や方法を理解させることができた。また、アサーティブな表現方法を生かして文章を書く技術を習得した。まだまだ自在に書きこなせるまでには至らないが、今回の経験は今後の日常生活や社会生活の場で生かされるであろう。

(2)課題

新しい媒体に応じた表現方法の指導

メールは比較的新しいコミュニケーションの媒体であるため、その使い方や、それを生かした表現方法の指導は、まだ十分になされてはいない。今後は、情報教育の観点からの使い方の指導とともに、国語科としては、手紙やメール等の特長を生かして効果的に利用できるように、「書く能力」を育む指導が必要である。

「書くこと」についての体系的な指導とねらいの重点化

従来の「書くこと」についての指導は、感想や意見を分かりやすく書くというねらいで活動に取り組みさせるものが中心であったのではないだろうか。それはそれで必要な学習活動ではあるのだが、「書くこと」の内容は多岐にわたる。学習指導要領には、「書くこと」について、「記録」「案内」「紹介」「連絡」「説明」「意見」「手紙」「通知」「報告」等を書くという言語活動例を通して指導することが示されている（41ページ参照）。これらの文章を、相手や目的や場に応じて適切に「書く能力」を身に付けさせるよう、教科・科目の指導計画に体系的に位置付ける必要がある。また、それぞれの学習のねらいを重点化して生徒に示して、「書く能力」の向上が実感できるような言語活動を効果的に取り入れていくことが大切である。

参考文献

- ・平木典子 日精研心理臨床センター企画『アサーショントレーニング - さわやかな 自己表現のために - 』金子書房
- ・園田雅代・中釜洋子 日精研心理臨床センター編『子どものためのアサーション（自己表現）グループワーク 自分も相手も大切に作る学級づくり』金子書房
- ・村上龍『eメールの達人になる』集英社
- ・ササキバラ ゴウ『eメールの文章作法』PHPエル新書
- ・パキラハウス『ちょっとしたものの言い方』講談社
- ・田中孝一・西辻正副編著『評価規準が授業を変える！ 高校国語の評価規準と実践例』明治書院
- ・学研辞典編集部編 平田毅彦監修『実用手紙・文書の書き方辞典』学習研究社

アサーション度チェックリスト - あなたのアサーション度は？ -

チェックの手順

始めに：あなたが普段どうしているかを考えて、文章の後の（はい・いいえ）のいずれかを で囲んでください。「いいえ」と答えた項目は、あなたが普段自己表現できていない、あるいは苦手な領域です。「いいえ」が半分以上あった人は、普段の生活や人間関係に支障を感じているかもしれません。

次に：「はい」と答えた項目について、もう一度手チェックしてください。「はい」が、相手に対して否定的な感情をもったものだったり、腹立たしさを攻撃的に表現したものだったり、相手を無視する意図が潜んでいたものだったりしていたら、その「はい」は にします。その項目については、自分の意志や気持ちは大切にしているものの、相手を考慮に入れていない言動をしているかもしれません。

最後に：チェックがすんだら、 印の数を数えてください。「はい」の数が十以上あれば、あなたのアサーション度は普通以上ということが出来ます。

自分から働きかける言動

- | | | |
|----|---|----------|
| 1 | あなたは、誰かにいい感じを持ったとき、その気持ちを表現できますか。 | (はい・いいえ) |
| 2 | あなたは、自分の長所や、成し遂げたことを人に言うことができますか。 | (はい・いいえ) |
| 3 | あなたは、イライラをおさえることができますか。 | (はい・いいえ) |
| 4 | あなたは、見知らぬ人たちの会話の中に、気楽に入っていくことができますか。 | (はい・いいえ) |
| 5 | あなたは、会話の場から立ち去ったり、別れを言ったりすることができますか。 | (はい・いいえ) |
| 6 | あなたは、自分が知らないことや分からないことがあった時、そのことについて説明を求めることができますか。 | (はい・いいえ) |
| 7 | あなたは、人に援助を求めることができますか。 | (はい・いいえ) |
| 8 | あなたが人と異なった意見や感じをもっているとき、それを表現することができますか。 | (はい・いいえ) |
| 9 | あなたは、自分が間違っているとき、それを認めることができますか。 | (はい・いいえ) |
| 10 | あなたは、適切な批判を述べるすることができますか。 | (はい・いいえ) |

人に対応する言動

- | | | |
|----|---|----------|
| 11 | 人から誉められたとき、素直に対応できますか。 | (はい・いいえ) |
| 12 | あなたの行為を批判されたとき、受け応えができますか。 | (はい・いいえ) |
| 13 | あなたに対する不当な要求を拒むことができますか。 | (はい・いいえ) |
| 14 | 長電話や長話のとき、あなたは自分から切る提案をすることができますか。 | (はい・いいえ) |
| 15 | あなたの話を中断して話し出した人に、そのことを言えますか。 | (はい・いいえ) |
| 16 | あなたは人からの誘いを受けたり、断ったりすることができますか。 | (はい・いいえ) |
| 17 | 押し売りを断れますか。 | (はい・いいえ) |
| 18 | あなたが注文したとおりのもの（料理や洋服など）が来なかったとき、そのことを言って交渉することができますか。 | (はい・いいえ) |
| 19 | あなたに対する人の好意がわずらわしいとき、断ることができますか。 | (はい・いいえ) |
| 20 | あなたが援助や助言を求められたとき、必要あれば断ることができますか。 | (はい・いいえ) |

アサーションとは

アサーションとは、自分も相手も尊重しようという精神で、自分の気持ち・考え・意見・希望などを、率直に正直に、しかも適切な方法で表現すること（アサーティブな自己表現）をいう。ただし、相手を優先し、とりあえず自分のことは後まわしにする表現（非主張的な自己表現）や、自分を優先し、自分だけを大切に、相手が眼中にない表現（攻撃的な自己表現）は、アサーションには当たらない。なお、辞書にはアサーションの意味として「主張」「断言」などの言葉があるが、トレーニング法としてのアサーションは、単純な自己主張以上の、より幅広い意味を含んでいる。

平木典子 日精研心理臨床センター企画『アサーショントレーニング - さわやかな 自己表現のために -』（金子書房）より、一部改変して使用。

話し言葉における婉曲表現の意図を考えよう

日本語の乱れの一つとして話題になっている「若者言葉」などには、話し手の潜在意識の中に、断定的な言い回しを避けたり賛同を求めたりして、相手との連帯感を求めるような意識が働いていると思われる表現があります。

次の ~ の例文は、後のA～Cの表現パターンのどれに当てはまるか考えてみましょう。

- 「コーヒーの方お持ちいたしました。」 ()
- 「私って朝起きられない人じゃないですか。」 ()
- 「オレ的にはOKです。」 ()
- 「これけっこういけてね - ?」 ()
- 「カラオケとか行く？」 ()
- 「手とかつないでみる？」 ()
- 「私、卒業したら、ちょっとは落ち着いて社会勉強しようと思うの、みたいな。」 ()
- 「私って、お肉食べない人なんですよ。」 ()
- 「それじゃあ、ちょっとまずいって感じじゃない？」 ()

- A 緩衝剤によって言葉をソフトにする表現
- B 自分でない誰かにとりあえず賛同する形で、相手の反応を伺う表現
- C 話しながら相手と連帯感を求める表現

例として挙げた文の中には、話し手の意図とは裏腹に聞き手が違和感を覚えるものや、公的な場にふさわしくないものもあります。

待ち合わせに遅れている相手にメールを打つ(その1)

問1 次の状況を想定して、の中にメールの文章を書きなさい。

あなたは待ち合わせをしています。相手から言い出した約束にもかかわらず、20分ほど待たされています。他の用事を工面して来たあなたはイライラしています。そこで、相手にメールを打って状況を確認してみようと考えています。

問2 問1で書いた文章の中に、婉曲表現と思われるところがあったら、線を引きなさい。

角が立たない丁寧な表現

問1 次 ~ のそれぞれの場面で、角が立たない丁寧な言い方になっている順にア~ウを並べ替え、記号で答えなさい。

会議中、複数の人がアイデアを出し、1つに絞り込みたい時

ア 「Aさんのアイデアが正解だと思います。」

イ 「Aさんのアイデアが正解です。」

ウ 「Aさんのアイデアが正解ではないでしょうか。」 () () ()

相手に動向を聞きたい時

ア 「いかが相成りましたでしょうか。」

イ 「どうなったでしょうか。」

ウ 「どのようになりましたでしょうか。」 () () ()

相手の承諾を得たい時

ア 「ご承諾いただけますと幸甚に存じます。」

イ 「ご内意だけでもお知らせいただければ幸甚に存じます。」

ウ 「承諾してもらえると幸いです。」 () () ()

問2 次の ~ のそれぞれの場面で、ア、イのどちらがアサーティブな表現か、記号を で囲みなさい。

「コーヒーしかありませんが…」とコーヒーを勧められた時

ア 「コーヒーでいいです。」

イ 「コーヒーがいいです。」

期限を確認したい場合

ア 「月曜ではいけませんか。」

イ 「月曜でも大丈夫ですか。」

予定変更をメールで知らせる場合

ア 「本日の会議は中止になりました。」

イ 「本日の会議は中止にしたいと思います。」

期限を過ぎた本を返してほしい時

ア 「本をお返しく下さい。」

イ 「本をお返しいただくと幸いです。」

問3 次 ~ の話し言葉を、資料を参考にして書き言葉に直しなさい。

すみませんが ()

来てくれませんか。 ()

話は聞いています。 ()

やってもらえませんか ()

問4 「早く返事をください。」という表現を、相手の立場に配慮しながらも、より早く相手に行動を起こさせる表現に直しなさい。

待ち合わせに遅れている相手にメールを打つ（その2）

次の状況を想定して、の中にメールの文章を書きなさい。絵文字・顔文字・記号を使わずに、書き言葉だけで表現しよう。

某社の社員であるあなたは、取引先の社員と仕事の打合せをするために、駅で待ち合わせをしました。相手が指定した約束の時間を20分ほど過ぎましたが、相手は現れません。他の用事を工面して来たあなたはイライラしています。そこで、相手にメールを打って状況を確認してみようと考えています。なお、相手とはそれまで電話やメールで数回やり取りがあるだけで、親しい間柄ではないものとします。

伝えにくいことをアサーティブに伝えるには...

相手の立場になり、好意的に解釈した上で要求を書くと伝わりやすい。
相手が返事しやすいようにする気配りも大切。

依頼	<ul style="list-style-type: none"> ・趣旨を明確に。 ・謙虚に。 ・理由を具体的に述べ、あいまいな表現を避ける。
催促	<ul style="list-style-type: none"> ・感情的にならず、相手の良心に訴えるような気持ちで書く。 ・間をおいて読み直す。
苦情	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように困っているかをはっきり伝え、相手に善処してもらうように促す。 ・間をおいて読み直す。
抗議	<ul style="list-style-type: none"> ・刺激を与えない文章で説得する。 ・相手を納得させ反省を促し、良い方向に持っていくことが目的である。 ・相手のためになると思わせることが大切である。 ・間をおいて読み直す。
謝罪	<ul style="list-style-type: none"> ・誠意を見せるために率直に謝り、弁解がましいことを書かない。 ・善後策を示す。 ・すぐに出す。
断り	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の心情を思いやる言葉を添える。 ・引き受けられない理由を誠実に伝える。 ・この先も付き合いが続くような配慮をする。

相互評価

()さんへ ()より

読んだ印象はどうか。

- A たいへん良い B 良い C あまり良くない D 良くない

どのような点についてそう思いますか。具体的に書いてください。

どの部分をどのように直すとさらによくなると思いますか。具体的に書いてください。

自己評価 ()組()番 氏名()

この学習で感じたことを自由に書いてください。

事例 3

「書くこと」の言語活動を通して評論文を的確に読む

1 育成を目指す言語能力

本単元は、論理的な文章を読んで論理の展開や要旨を的確に読み取るという言語能力を育成するために計画したものである。「現代文」の学習指導要領の指導事項の「ア 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえること。」を指導の中心に取り上げ、「筆者がどのように考えを展開して結論を導き出しているかという、論理の展開の仕方をとらえている。」という評価規準で評価する。

教材である評論「垂直のファッション 水平のファッション」（鷲田清一）を的確に読み取るために、言語活動例の「ア 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。」を参考にして、「書き手の主張を踏まえた上で、論理の展開や構成を工夫して意見文を書く」という言語活動を取り入れる。読む学習の中に表現活動を取り入れることにより、読む能力の伸長を図るとともに、表現力の向上をも期している。

本単元は、第3学年における年間指導計画の5月に位置付けて実施した。10月以降は進学等の試験が控えており、「国語力」が実践の場で試される。また、その後も、目的や場などに応じて適切に表現する能力は、実社会の様々な場面で求められる。

2003年に実施された「OECD生徒の学習到達度調査(PISA)」では、日本の高校生の読解力の低下が大きくクローズアップされた。特に、読解のプロセスにおいては「テキストの解釈」「熟考・評価」に、出題形式においては「自由記述(論述)」に課題があることが明らかになった。また、公開されている2000年の問題を検討した結果、具体的には次のような内容の問題に課題があるのではないかと指摘されている。

- ・テキストの表現の仕方に着目する問題
- ・テキストを評価しながら読むことを必要とする問題
- ・テキストに基づいて自分の考えや理由を述べる問題

中でも特に、「テキストに基づいて自分の考えや理由を述べる問題」における日本の高校生の無答率は、OECDの平均の軒並み2倍から3倍と突出していた。

これらのことから、「読む能力」を高めることをねらいとした「現代文」においても、「テキストに基づいて自分の考えや理由を述べる」ような学習活動を行うことは極めて重要である。

2 学習活動の概要

(1)単元名 「書くこと」の言語活動を通して評論文を的確に読む(5時間)

(2)単元の目標

論理的な文章を読んで、人間、社会などについて自分の考えを深めたり発展させたりする態度を身に付ける。(関心・意欲・態度)

筆者がどのように考えを展開して結論を導き出しているかという、論理の展開の仕方をとらえる。(読む能力)

言葉による認識の可能性を広げ、思考力を深め感受性を豊かにすることにつながるように、語彙を豊かにする。(知識・理解)

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
論理的な文章を読むことを通して、人間、社会などについて自分の考えを深めたり発展させたりしようとしている。	筆者がどのように考えを展開して結論を導き出しているかという、論理の展開の仕方をとらえている。	言葉による認識の可能性を広げ、思考力を深め感受性を豊かにすることにつながるように、語彙を豊かにしている。

(4) 指導と評価の計画（5時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1	<p>評論「垂直のファッション 水平のファッション」の論理の展開をとらえるために意見文を書く</p> <p>通読前に「ファッション」についての自分の考えをノートにまとめて発表する。</p> <p>評論「垂直のファッション 水平のファッション」の本文を通読し、難解な部分や興味をもった部分をノートにまとめ、発表する。</p>	<p>他の生徒の考えを知ることで、自分の考えを深めさせる。</p> <p>筆者の視点に気付かせ、本教材への関心を深めさせる。</p>	<p>読む能力 (発表、ノートの記述の確認)</p>
2 4	<p>筆者の主張を読み取るとともに、論理の展開や構成の仕方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文からキーワード、キーセンテンスを抜き出し、ワークシート「資料1」に書き込む。 抽象的な語句の言い換えや比喻の意味する内容をとらえる。 各段落に小見出しを付ける。 	<p>本文が序論・本論・結論の三段落構成になっていることを理解させる。</p> <p>「垂直のファッション」「水平のファッション」の具体例を挙げさせる。</p>	<p>知識・理解 (ワークシート「資料1」の記述の確認、発表内容の分析)</p>
5	<p>筆者の主張を踏まえて、ファッションについての意見文を書く。</p>	<p>筆者の主張を踏まえているか、具体例を挙げているかを確認し、不十分な生徒に助言する。</p>	<p>読む能力 (ノートの記述の確認) 「資料2」</p>

「関心・意欲・態度」は、単元全体を通して評価する。

3 評価の例

本単元の目標は、「筆者がどのように考えを展開して結論を導き出しているかという、論理の展開の仕方をとらえている」ことであり、その学習を効果的に進めるために、「書き手の主張を踏まえた上で、論理の展開や構成を工夫して意見文を書く」という言語活動を取り入れた。

「十分満足できる」と判断される生徒の作品例[資料2]に見られるように、書き手の主張に賛同したり、異を唱えたりしながら、目標に見合った意見文を書いている。

4 成果と課題

(1)成果

「垂直のファッション 水平のファッション」は、極めて抽象性が高く、生徒にとって難解な評論であったが、構造図のワークシート[資料1]を利用した学習によって、筆者の主張を読み取るとともに、論理の展開や構成の仕方をおおむね理解することができた。その上で、「筆者の主張を踏まえること」及び「具体例を挙げること」を留意点として、論理の展開や構成を工夫して意見文を書かせた。特に字数の指定等はせずに書かせたが、ほとんどの生徒が、「おおむね満足できる」と判断される内容で、六百～八百字の意見文を書き上げた。

(2)課題

今回は、「垂直のファッション 水平のファッション」を教材として、論理の展開や要旨を的確に読み取るために「書くこと」の言語活動を取り入れたわけであるが、本教材は生徒にとっては難解な教材だった。生徒の学習の状況や発達段階に合わせて、よりふさわしい教材を選定することが大切であろう。

参考文献

- ・ 国立教育政策研究所編集 『生きるための知識と技能 OECD生徒の学習到達度調査(PISA)2000年調査国際結果報告書』ぎょうせい
- ・ 『現代文2』東京書籍株式会社
- ・ 『現代文2 指導資料』東京書籍株式会社

評論「垂直のファッション 水平のファッション」

構成図

序論

第一段落 ファッションの特徴 — **〈鏡〉**としてのファッション
 第一節 要点 ファッションとは **〈鏡〉**の現象である。
 論証・説明
 ・人は、**他者**の視線を絶えず取り込むことで **自己解釈やセルフ・イメージ**を調整し合う。
 第二節 要点 装いとは、セルフ・イメージを補強し、相互に調整するためのものである。
 装いとは、**互いに自己を移し合う〈鏡〉の現象の最も重要な媒体**である。

本論

第二段落 ファッションの二つの方向 — **〈垂直〉の装いと〈水平〉の装い**
 第一節 要点 ファッションとは① **人を秩序の内部へと組み入れるメディア**であると同時に、② **人をその秩序の外部へと連れ出すメディア**でもある。
 ジアン・ルイ・ペドゥアンの例・・・ **仮面・化粧**
 論証・説明
 ② **自分の本質・存在の変換、転覆を行う、宇宙的な意味を持つ外見の変換**
 ① **与えられた存在の枠組みの中で自己イメージの演出や操作を行う、人と人との間のイメージの変換**
 ② **〈垂直〉の装い** 例・・・ **子供が大人になる通過儀礼**
カーニバルにおける王子から乞食へ
 ① **〈水平〉の装い** 例・・・ **現存する社会における「他人にもっとよく見られたい」という願望を持って装う**
 要点
 ・装いには**〈垂直〉の装いと〈水平〉の装い**がある。
 ・人類の歴史は、装いの方向を垂直から水平へ変化させてきた。
 第二節 論証・説明
 ② **〈垂直〉の装い**・・・ **宗教や科挙と同様、見えないものをつかみ、「別の世界」へと移行するための技法**
 ① **〈水平〉の装い**・・・ **同じ社会の他者に向けられた誘惑の手段、対人関係の調整のための手段**

結論

第三段落 二十世紀のファッション・**モード**の特徴 — **垂直性のベクトル**を失ったファッションは**差異**と**形式の新しさ**のみを求める
 第一節 問題提示 **垂直性のベクトル**を失ったファッションはどうなるか。
 モードの世紀としての二十世紀のファッションの問題。
 答え・結論
 ・**匿名** **差異**を求めるしかなくなる。
 ・求められる「新しさ」は、**意味の新しさではなく形式の新しさ**である。
 ・ファッションは、身体**の輪郭**という**限定された可能性の幅**で動くから、その「新しさ」は**循環せざるを得ない**。
 第二節 まとめ 二十世紀のファッションを支配する**モード**の特徴
 ① **あらゆる権力が變遷するものであり、あらゆる秩序を覆す力としてはたらく** (ボードリヤール)
 ② **軽薄で持続性のない無根拠な変換を拡大させていく。**
 ③ **自ら作り上げた意味を裏切ることを唯一の目的とする意味体系である。**

* 構成図の 部に記入させた。

* 『現代文2 指導資料』（東京書籍株式会社）より、一部改変して使用した。

筆者の主張を踏まえて、ファッションについての意見文を書く

生徒の作品例に、次のように、傍線とその解説を付け加えて示す。

~~~~~ 線部 筆者の主張を、要約、または引用した部分。

—— 線部 筆者の主張を踏まえた上で、自分の考えを深めたり発展させたりして述べた部分。

—— 線部 接続詞などを効果的に用いて、論理の展開や構成を工夫した部分。

「十分満足できる」と判断される生徒の「意見文」作品例

「ファッションとは鏡の現象である」と筆者は述べている。私は今までそのようなことは一度も考えたことはなかったが、知らず知らずに私たちは他人を鏡として自分自身を織り上げていることに気づくことができた。

しかし、読み進めるうちに一つの疑問を持った。私たちは（わたし）を縫い上げるために、常に他者の視線を取り込み、同じ意味の衣服を身にまとわなければならないのか、ということだ。確かに私たち人間は、絶えず視線を交換している。そして（わたし）というイメージを互いに調整し合うことも多々あるだろう。だが、私にまなざしを送ってくれる他者は数えきれないほどいる。その一つ一つのまなざしを理解して、すべてを自分の中に取り込み、補強していかなければならないのか。私にまなざしを送ってくれる人が百人いるとしよう。その中で、何種類のまなざしがあるかは分からないが、一種類でないことは明らかである。二種類、三種類かもしれないし、十種類以上あるかもしれない。多数のまなざしがある中、私たちはすべてのまなざしを取り込んでいるのだろうか。そんなに多くのまなざしを取り込んで補強し続けたら、（わたし）を見失ってしまうのではないだろうか。筆者の言うように、私たちは自分の感覚だけでは、織り上げられない存在で、他者のまなざしが必要であることは間違いない。しかし、他者のまなざしばかりに頼って、自分を見失っては何の意味もないと思うのだ。

要するに、私たちは、自分というものを見失わないために、他者のまなざしの中でも、あるまなざしを取り込むべきか、そうではないかを、自然と使い分け、多少遠回りしながらでも、私の中の（わたし）を織り上げていると言った方が適切ではないかということだ。

**事例 4**

**「書くこと」の言語活動を通して小説を的確に読む**

1 育成を目指す言語能力

本単元は、文学的な文章を読んで、人物、心情などを的確に読み取るという言語能力を育成するために計画したものである。「現代文」の学習指導要領の指導事項の「イ 文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。」を指導の中心に取り上げ、「登場人物の様子や生き方、人物の心情の推移などを的確にとらえている。」という評価規準で評価する。

教材である小説「鞆」（安部公房）を的確に読み取るために、言語活動例の「ウ 文章の理解を深め、興味・関心を広げるために、関連する文章を読んだり創作的な活動を行ったりすること。」を参考にして、「小説を読んで考えたことをもとに、論理の展開や構成を工夫して小論文を書く」という言語活動を取り入れる。読む学習の中に表現活動を取り入れることにより、読む能力の伸長を図るとともに、表現力の向上も期している。

本単元は、第3学年における年間指導計画の5月に位置付け、事例3で紹介した、評論「垂直のファッション 水平のファッション」（鷲田清一）の単元に続いて実施した。前単元で学習した、論理の展開や構成の仕方の工夫を、本単元の「書くこと」に関する言語活動に生かすことで、小説を読み深めさせるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深めさせたり発展させたりする。

2 学習活動の概要

(1) 単元名 「書くこと」の言語活動を通して小説を的確に読む（5時間）

(2) 単元の目標

小説を読んで、人間、社会などについて、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めたり発展させたりする態度を身に付ける。 （関心・意欲・態度）

小説を読んで、登場人物の様子や生き方、人物の心情の推移などをとらえる。 （読む能力）

言葉による認識の可能性を広げ、思考力を深め感受性を豊かにすることにつながるように、語彙を豊かにする。 （知識・理解）

| 関心・意欲・態度                                                | 読む能力                                     | 知識・理解                                                |
|---------------------------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 小説を読んで、人間、社会などについて、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めたり発展させたりしようとしている。 | 小説を読んで、登場人物の様子や生き方、人物の心情の推移などを的確にとらえている。 | 言葉による認識の可能性を広げ、思考力を深め感受性を豊かにすることにつながるように、語彙を豊かにしている。 |

(4) 指導と評価の計画 ( 5 時間 )

| 時間          | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                  | 指導上の留意点                                                                                                                                         | 単元の評価規準と評価方法                           |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|
| 1<br>(<br>2 | <p>小説「鞆」を読み深めるために、小説を読んで考えたことをもとに、論理の展開や構成を工夫して小論文を書く</p> <p>全文を通読し、初発の感想や疑問点をまとめて発表する。</p> <p>「青年」と「私」の心理を言動に即して的確に読み取る。</p> <p>「鞆」がどのようなものとして描かれているか、本文から抜き出してまとめる。</p> <p>「鞆」が「私」を支配していく様子をまとめる。</p> <p>「鞆」が象徴するものや、小説を読んで考えたことについて自分の考えをまとめる。</p> | <p>生徒から出された意見、疑問点を集約して板書し、作品に対する関心を深めさせる。</p> <p>「青年」の答え方と「私」の鞆に対する興味の深まりに注意させる。</p> <p>「私」の行動と心情の変化に注意させる。</p>                                 | <p>読む能力、知識・理解<br/>(発表、ノートの記述の確認)</p>   |
| 3           | <p>「『私』が考えたこと」について600～800字程度の小論文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論点に沿って結論部に当たる自分の考えをまとめる。</li> <li>・自分の主張を支える具体例を書く。</li> <li>・評論「垂直のファッション 水平のファッション」で学んだ文章の論理の展開や構成の仕方を生かす。</li> </ul>                                              | <p>評論のワークシートを参考にし、「序論・本論・結論」の三段落構成でまとめさせる。その際、次のような、文章の型の例を示して助言する。</p> <p>序論：話題提示型、問題提示型、意見提示型</p> <p>本論：事例考察型、反論容認型</p> <p>結論：感想型、思索型、解決型</p> | <p>読む能力、知識・理解<br/>(作品の分析)資料1</p>       |
| 4           | <p>小論文をグループで相互評価する。</p>                                                                                                                                                                                                                               | <p>客観的な視点から具体的に評価させる。</p>                                                                                                                       | <p>読む能力、知識・理解<br/>(相互評価票資料2の記述の確認)</p> |
| 5           | <p>自分の小論文に対する友人の評価を読んで、自分の考えを深めたり発展させたりする。</p> <p>友人の評価を参考にして自分の小論文を評価する。</p> <p>優れた作品の数編を読む。</p>                                                                                                                                                     | <p>記号による評価だけでなく、コメント欄に留意させる。</p> <p>「十分満足できる」と判断される小論文の数編を読ませて、まとめとする。</p>                                                                      | <p>読む能力、知識・理解<br/>(自己評価票資料3の記述の確認)</p> |

「関心・意欲・態度」は、単元全体を通して評価する。

### 3 評価の例

本単元の目標は、「文学的な文章を読んで、人物、心情などを的確に読み取る」ことであり、その学習を効果的に進めるために、「小説を読んで考えたことをもとに、論理の展開や構成を工夫して小論文を書く」という言語活動を取り入れた。

「十分満足できる」と判断される生徒の作品例[資料1]では、序論において小説に描かれた「自由」への疑問が提示される。本論では、私たちが普段感じている「自由」の具体例とその考察が述べられ、小説における「自由」と私たちの「自由」との類似性が指摘されている。これらを通して、人間が求める「自由」が、実は「何からも拘束されないこと」ではなく、「拘束された中で初めて感じるができるものである」と結論づけられる。評論「垂直のファッション 水平のファッション」の単元で学んだ論理的な文章展開や構成の「型」を生かして書いている。

### 4 成果と課題

#### (1)成果

この実践は、「小説を読んで考えたことをもとに、論理の展開や構成を工夫して小論文を書く」という言語活動を取り入れることによって、「人物、情景、心情などを的確に読み取る」能力の育成を目指したものである。小論文を書くに当たっては、評論の単元で学習した論理的な文章の展開や構成の「型」を生かして書くことに留意させた。評価に当たっては、各時の学習活動に応じて、ノートの記述の確認・小論文・相互評価・自己評価等を用いた。

小論文の記述内容から評価した、小説の内容の読み取りに関しては、単元の評価規準に照らして、「十分満足できる」と判断されるもの(38%)と、「おおむね満足できる」と判断されるもの(42%)を合わせて80%に上った。自己評価[資料3]では、「文章展開の『型』が理解できたか。」の問いに対して、「A できた」(22%)、「B だいたいできた」(44%)となっている。

小論文の相互評価[資料2]では、多くの生徒が、互いの作品の良い点・改善すべき点を、客観的・分析的な視点から具体的に述べている。「相互評価」を取り入れることで、「書くこと」への客観的な視点を得られ、それぞれの生徒の課題が明確に意識される。自己評価[資料3]の自由記述にも、約7割の生徒が「相互評価を生かして、次は説得力のある小論文を書きたい」と意欲的に述べており、相互評価が「書くこと」の意欲の向上に効果的に機能している。

#### (2)課題

自己評価の項目の、「文章展開の『型』を利用して、全体の構成を考えて書けたか。」の問いに対しては、「A できた」(0.8%)、「B だいたいできた」(42%)となっており、理解と運用との間に大きな隔りがある。今後も「書く」活動を効果的に取り入れる必要がある。

小論文の記述内容から「努力を要する」と判断される生徒の中には、「教材自体が難解すぎて、読み取れず書けなかった」、「作品自体に興味がわからず、自分の考えもないので書けない」(「自己評価」の感想)と述べている例もあった。これらの生徒に対しては、グループ活動を取り入れて学び合う場や意見交換の場を設けたり、ブレインストーミングを用いたりするなど、様々な指導の工夫が必要であろう。

### 参考文献

- ・『現代文2』東京書籍株式会社

「十分満足できる」と判断される生徒Bの「小論文」作品例

この小説を読んで一番疑問に思ったのは、どうして「私」は大きな鞆を持つていても自由だと感じる事ができたのかということである。他者からみれば鞆に拘束されていて、とても自由だとは思えない状況である。

しかし、私たちが普段求めている自由と、事務所の男の人が感じた自由は全く違うわけではないと思う。私達は生きていく限り何かで束縛されている。法律や規制もその一つである。それらに拘束された状態の中でも自由だと思ふことはある。例えば、くじ引きなどで賞品が当たった時に、店の人が「この中から好きなものを自由に選んで下さい」などと言うことがある。しかし、よく考えてみると「この中から」などと制限されている。適切な例ではないかもしれないが、このような時の自由と事務所の男の人が感じた自由は同じだということができる。もし、人が本当に何からも束縛されなかったら、人はそれを自由だと感じるだろうか。校則のない学校があつたらどうだろうか。授業の時間割も服装もすべて自分で決めることができる。普段の生活と違うので、最初のうちは楽しいかもしれない。しかし、毎日自分ですべてのことを考えて実行すると、自由すぎることは、逆になんかきつとそうのうち、自由すぎることに逆に負担に思えてくるだろう。

だから、人は拘束のある中でも、多少の選択の余地やゆとりがあるような状況で自由を感じるのだと思う。そう考えると、私が最初に感じた疑問は解消される。私が最初に疑問に感じたのは、普段自由というものを拘束された中で感じていたということ意識したことがなかったからだ。人の求める自由とはなく、拘束された中で感じる事ができるものなのだ。

相互評価票の記述例

「鞆」小論文 相互評価票 3年組 ( )さん

1 主張は明確か。

- A とてもよい (B) どちらかといえばよい C もう少し努力が必要  
アドバイス等

二段落目で、「拘束されていることがありえないと考えた」とあるが、その理由が述べられているとよかった。三段落とも疑問点から始まっていたので、どちらかにしぼるとよい。

2 主張を支える事実や体験が明確に示されているか。

- A とてもよい (B) どちらかといえばよい C もう少し努力が必要  
アドバイス等

自分が拘束されていると思うときの具体例と、その他の具体例の2つが挙げられていてとてもわかりやすい。13行目の表現が難解であった。

3 文章展開の「型」を利用して、全体の構成を考えて書いているか。

- (A) とてもよい B どちらかといえばよい C もう少し努力が必要  
アドバイス等

冒頭の疑問点、わかりやすい具体例、最後の結論というように、しっかり構成されていた。

## 相互評価票の各項目の記述例

### 「1 主張は明確か。」の項目について

- ・「義務や責任」があってこそ私たちは自由でいられるという主張に基づいて文章が書かれていて、矛盾していなかった。
- ・「自由」の辞書上の意味と本文や現代における「自由」の感じ方の違いと、その原因まできちんと述べられていて良かった。
- ・靴についての説明を分かりやすく例を挙げて伝えているだけで、何を言いたいのか分からない。(作者の意見と自分の意見がどう違って、どこが一緒かなど)文章中で「思う」がたくさんでてきているのでもう少し、言い方を変えると良いと思う。
- ・「靴」に対して自分の考えをしっかりと主張できていると思う。筆者が現代人に対しての批判を書いているが、自分はむしろ良いとしてとらえたということを素直に書いているところが、小論文としておもしろい。

### 「2 主張を支える事実や体験が明確に示されているか。」の項目について

- ・「授業中に……」「修学旅行などで……」と、学校生活での身近な体験が挙げられていて分かりやすかった。私もそう感じたことがあるという共感できるものだった。
- ・私たちにも身近な「法による拘束」を例に挙げていて、分かりやすかった。自由の本来の意味のことを書いてある段落はわざわざ独立させず、詳しく説明が書かれている次の段落に加えてみても良いと思った。
- ・携帯電話やパソコンなど、現代のものに置き換えた例を挙げていて分かりやすかった。また、「拘束されているのは昔からだ」と述べるために、戦争時代の例を挙げていて、誰が読んでも納得できる仕上がりになっていた。

### 「3 文章展開の型を利用して、全体の構成を考えて書いているか。」の項目について

- ・最初に疑問を述べて、例を挙げて結論という構成でまとまりがあって良い。
- ・今後どのようにしたら良いかが書いてあって良かった。主題に対しての答えもあって、全体的に良くまとまっていた。
- ・序論に明確な問題提起があるし、例が結論部へ自然につながっていて気持ち良く読める。
- ・全体的な構成はきちんとできていると思う。段落分け方もきちんとできていて読みやすい。文章展開の型の利用は、少し足りないところもあるかもしれないが、全体的に良い文章だと思う。

「鞆」小論文 自己評価票 3年組 ( )

1 目的に応じて、題材を選んで書けたか。

A できた B だいたいできた C  もう少し努力が必要

目的に応じられなかった。他の人に比べて、題材の内容がずれていた。「鞆」の内容にふさわしいものではなく、ひたすら「自由」について述べていた。

2 主張は明確か。

A よい B どちらかといえばよい C  もう少し努力が必要

主張は明確にできたと思うが、読み手を説得できなかったと思う。反論を加えたが、客観性や意見のバランスが偏っており、物足りない。

3 主張を支える事実や体験が明確に示されているか。

A よい B どちらかといえばよい C  もう少し努力が必要

もっと明確な具体例があればよくまとめられたと思う。事実もあまり深く考えられなかったので、読み手を説得できなかったと思う。

4 文章展開の「型」が理解できたか。

A できた B  だいたいできた C もう少し努力が必要

プリントを見て、だいたいできた。覚えたらきっと更にうまくなるだろう。

5 文章展開の「型」を利用して、全体の構成を考えて書けたか。

A できた B だいたいできた C もう少し努力が必要

序文、共感、反論、結論の構成は意識した。また、序文の疑問の答えを結論でまとめられるようにした。

6 小論文を書いた感想

構成については型をまねればよいのだが、主張のまとめ方や意見の展開の仕方、どうすれば読み手を納得させられるかなどを考えるのが難しかった。相互評価するのも自分の弱点がわかるのでよかった。でも匿名にしてほしかった。私は自分の意見を主張することが苦手なので、自分の考えが題材にふさわしいか自信がなかったし、うまく書き表すのも大変だった。もっと上手に書けるようになりたい。

### 自己評価票の各項目の記述例

「1 目的に応じ、題材を選んで書けたか。」の項目について

- ・「鞆」の世界と私たちの生きる世界は異なるが、物に依存してしまう人間の心理は変わらないという点で書くことができたと思う。
- ・拘束されていることに気付かない恐怖を書きたかったので、パソコンと戦争を選んだ。
- ・自分が言いたいことと、そのことの例示が繋がりがなくて、題材の選択がもっと違うもののほうが良かった。
- ・自分が疑問に感じたことは文頭にはっきり書いたが、主張などは少し具体性、説得力が欠けているように思えた。

「2 主張は明確か。」の項目について

- ・主張を裏付ける内容等が抽象的すぎてあいまいな感じがした。
- ・「～と思う」という表現が多すぎたので、どれが主張だか分からなくなってしまった。
- ・「鞆」についての言い換えのようになってしまって、主張をあまりできなかった。「思う」という表現ばかりで主張が弱くなってしまった。「～である」などを使うようにしたい。
- ・「自分の意志を持つことが大切」ということを主張したが、この話に合う主張かどうか疑問が残った。

- 「3 主張を支える事実や体験が明確に示されているか。」の項目について
- ・もう少し明確な事実や体験を取り入れるべきだった。
  - ・ひとりよがりの例になってしまった。
  - ・主張にやっきになってしまい、事実や体験が抜けてしまった。今後気を付けたい。
  - ・事実は分かりやすく書けたと思うが、上手く結論にたどり着いていないような気がする。
  - ・「靴」の要約部分が多くて、例が書けなかったのがだめだったと思う。
- 「4 文章展開の型が理解できたか。」の項目について
- ・「確かに」というように、反対意見も提示することが分かった。
- 「5 文章展開の型を利用して、全体の構成を考えて書けたか。」の項目について
- ・「疑問点」「逆接」「理由」「例」をかたよりなく書けたと思うが、まとめをもっと具体的かつ簡潔に書くべきだった。
  - ・反対意見を肯定した内容の段落を入れた。
  - ・自分の言いたいことと最終的な結論がつながってなくて、分かりにくい文章展開になってしまった。
  - ・反論容認型を利用すると書きやすかったけれど、それに内容を肉付けするのが難しかった。
  - ・文章展開の型を使うことによって、少しは小論文らしくなったと思う。しかし、自分の伝えたいことを納得いくようにまとめることができなかった。
- 「6 小論文を書いた感想」について
- ・主張が書けても、その後どう続けてまとめるかで迷った。評価を参考に、もっと上手に書けるようにしたい。
  - ・はじめは面倒くさかったが、本論を書き始めたら、身近な例が次々に浮かんで、スラスラ書くことができた。個人的に「靴」の内容は好きなので、とても楽しく書けた。
  - ・初めて文章展開の型を意識しながら書いたので難しかった。
  - ・先生にアドバイスを頂いて結果的には上手くまとまったかな…。今後もう少し書くことに慣れて自力で構成できるようにならなければいけないと思う。
  - ・まだまだ練習不足で、目標の字数まで達することができなかった。自分の主張はある程度明確に書けたが、その先の文章展開があまり発展できなかった。次はもっとうまく書けるように頑張りたい。
  - ・「靴」の内容があまり良く分かっていなかったなので、それについての意見文を書くのは大変だった。書くことで自分の「靴」への理解も深まったのでよかった。
  - ・授業中に題材がまったく選べず、期限に追われながら書いたので、良く書けたとはいえない。けれども、説得力があるかどうか言い回しをあれこれ工夫して書いた。普段は小論文を書いたら書きっぱなしなので、また機会があれば相互評価や自己評価ができればと思う。
  - ・自分の考えを表現するのは難しいと思った。人に評価してもらったことで、自分の癖を指摘してもらったり、アドバイスしてもらったりしたので、自分のものをより客観的に読めるようになったと思う。これを生かして説得力のある小論文を書けるようになりたい。
  - ・「靴」の小説自体が、ページ数が少ないわりに内容がとても難しかったので、作者の考えを読み取ることがとても大変だった。他人に評価されて、自分の弱点をはっきり指摘してもらえたので、次に生かしたいと思う。

## おわりに

各事例の成果や課題から、次のような指導が授業改善の方策として指摘できる。生徒の実態に合わせて、各事例をアレンジしたり考え方の参考にしたりして御活用いただければ幸いである。

### 1 書く材料を与えたり集めさせたりして書き方を指導する

能力を身に付けさせるためには、それにふさわしい指導が必要である。「書くこと」の指導としては、テーマと文字数だけを条件として文章を書かせても、不十分な場合がある。「書くことがない」「書き方が分からない」という生徒には、書くための材料を与えて書き方を指導することも大切である。

**事例1** では、《逆クロスワードパズルを作ろう》《折り紙の折り方を説明しよう》《地図情報を文章で表現しよう》《指定された語を使って短い文章を書こう》《分かりやすい広告になるように推敲しよう》のワークシートで、書くための材料を与えている。そして、それらのワークシートのほとんどで、記入例や解答例を示し、学習の手引きとしている。《分かりやすい広告になるように推敲しよう》の学習では、《指定された語を使って短い文章を書こう》での考え方を応用して書かせている。また、《逆クロスワードパズルを作ろう》では、「『カギ』作成上の留意点」に示したように、一つの言葉を説明するために、様々な語彙を集めて整理させ、よりふさわしい表現を工夫させるようにしている。

また、書くための材料を集めさせたり整理させたりするための指導をした上で、書き方を指導することも大切である。これらの指導は、テーマ作文や小論文の指導においても生かすことができる。なお、事例では示さなかったが、ブレインストーミング、KJ法、フローチャート、ウェビング等の手法を取り入れたり、グループ協議をさせたりして、発想を広げさせ、テーマに関連する言葉を集めて整理させてから書かせる指導も有効であろう。

### 2 必然性のある言語活動や親しみやすい言語活動で学習意欲を喚起する

言語活動を取り入れる際に、場面設定を生徒にとって必然性のあるものにするすることで、学習活動が、より身近で、現実味を帯びたものになり、主体的な取組を促すことができる。また、生徒が楽しみながら学習するうちに力が付くように、生徒の実態を踏まえて、学習意欲を喚起できるような言語活動を工夫することも大切である。

**事例1** の《地図情報を文章で表現しよう》では、部活動と関連づけて道案内をする場面を、《分かりやすい広告になるように推敲しよう》では、就職先と関連づけて広告を書く場面を設定している。また、**事例2** では、《待ち合わせに遅れている相手にメールを打つ(その2)》において、就職先で取引先の社員にメールを書く場面を、《依頼状の「型」を学ぼう》では大学生が先生に手紙を書く場面を設定している。いずれも、高校生にとって、身近に、あるいは近い将来あるかもしれないと思わせるような工夫の一つである。

また、**事例1** の《逆クロスワードパズルを作ろう》《折り紙の折り方を説明しよう》《指定された語を使って短い文章を書こう》《分かりやすい広告になるように推敲しよう》のようなワークシートは、書くことに苦手意識をもつ生徒にも取り組みやすい工夫がなされている。

高等学校国語科は、「社会人として必要とされる言語能力の基礎」の確実な育成をねらいとしている。従って、実用を強く意識して書かせること、すなわち生活との関わりを重視して、学習の意義を生徒に自覚させることが大切である。

### 3 相手意識・目的意識をもって書かせて能力を高める

「目的や場や相手」を意識させることで、読み手に配慮した表現を工夫しながら、伝えたい内容を適切に「書く能力」を身に付けさせることが期待できる。

**事例1**の《逆クロスワードパズルを作ろう》では、高校生以上の解答者に対して含みのあるカギの文章を書かせている。《折り紙の折り方を説明しよう》では、幼児を持つ保護者を読者に想定して説明の文を書かせている。《地図情報を文章で表現しよう》では、部活動のチームメートにメールで道案内をさせている。《分かりやすい広告になるように推敲しよう》では、不特定多数の読み手に対して店を宣伝する文章を書かせている。**事例2**の《待ち合わせに遅れている相手にメールを打つ(その2)》では、取引先の社員にメールで問合せをさせている。《依頼状の「型」を学ぼう》では、先生に課題提出の猶予願いの文を書かせている。

以上のように、「目的や場や相手」を具体的に設定することで、書くことの内容が明確になる。なお、これらの設定を変えることで、新たな工夫を促すことができるものもあろう。例えば、《逆クロスワードパズルを作ろう》の解答者を「中学生」にしたり、《分かりやすい広告になるように推敲しよう》で示した広告の例文を、身近な例から収集させたりすることで、新たな学習活動の展開ができよう。事例で示した広告文のような例は、実際に身の回りにある文字表現の中に散見される。身近にある文章表現を教材にして指導することは、相手や目的を明確に意識して、伝えたい内容を適切に書くことへの動機付けには効果的である。

### 4 「読むこと」の指導にも「書くこと」の言語活動を取り入れて理解を深める

「読むこと」の学習に、生徒が主体的かつ積極的に取り組むことができるような「書くこと」の言語活動を取り入れることで、学習への興味や関心を喚起するとともに、確かな読みを導くことが期待できる。

**事例3**では、評論文を読む学習に、意見文を書くという言語活動を取り入れている。その際、論理の展開の仕方に着目させることで、的確な読みに導いている。

**事例4**では、小説を読む学習に、主題を踏まえて小論文を書くという言語活動を取り入れている。その際、評論文の単元で学習した、論理の展開の仕方を生かして書かせることで、身に付けた能力をスパイラルに高めつつ、小説の人物、心情などを的確にとらえさせる工夫をしている。

このように、「現代文」は、「読むこと」の学習を中心にした科目であるが、「書くこと」の言語活動（「話すこと・聞くこと」も同様である）を取り入れることも大切である。そもそも、言語活動例は、高等学校の授業の中で「読み取り」一辺倒の指導が少なくなかったのではないかというような指摘を受けて、具体的に示されている。

### 5 学習活動に自己評価や相互評価を取り入れて能力や意欲を高める

学習活動としての自己評価や相互評価により、「書くこと」に関して、生徒は新たな技術や視点を獲得したり、留意点を認識したりするようになる。また、それらを生かして文章を書こうとする意欲や態度が形成される。

**事例1**では、学習活動のまとめりに4回の自己評価の場面を、**事例2**と**事例4**では、単元最後の時間に自己評価と相互評価の場面を設定して、学習活動を振り返らせている。

なお、自己評価や相互評価を学習活動として取り入れた際に、教師にとって重要なことは、評価の結果によって後の指導を改善し、その指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させて生徒の学力向上に資することである。

## 国語科の各科目の言語活動例（高等学校国語科学習指導要領より）

## 国語表現

- ア 自分の考えを明確にして、スピーチ、発表、討論などを行うこと。
- イ 観察したことや調査したことを記録したり、まとめて報告したりすること。
- ウ 相手や目的に応じて、案内、紹介、連絡などのための話をしたり文章を書いたりすること。
- エ 身近にある様々な表現を集めてその効果などについて考えたり、生徒の表現活動について自己評価や相互評価を行ったりすること。

## 国語総合

## 話すこと・聞くこと

- (ア) 話題を選んで、スピーチや説明などを行うこと。
- (イ) 情報を収集し活用して、報告や発表などを行うこと。
- (ウ) 課題について調べたり考えたりしたことを基にして、話合いや討論などを行うこと。

## 書くこと

- (ア) 題材を選んで考えをまとめ、書く順序を工夫して説明や意見などを書くこと。
- (イ) 相手や目的に応じて適切な語句を用い、手紙や通知などを書くこと。
- (ウ) 本を読んでその紹介を書いたり、課題について収集した情報を整理して記録や報告などを書いたりすること。

## 読むこと

- (ア) 文章に表れたものの見方や考え方などを読み取り、それらについて話し合うこと。
- (イ) 考えを広げるため、様々な古典や現代の文章を読み比べること。
- (ウ) 課題に応じて必要な情報を読み取り、まとめて発表すること。

## 現代文

- ア 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。
- イ 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合うこと。
- ウ 文章の理解を深め、興味・関心を広げるために、関連する文章を読んだり創作的な活動を行ったりすること。
- エ 自分で設定した課題を探究し、その成果を発表したり報告書などにまとめたりすること。

## 古典

- ア 古文や漢文の調子などを味わいながら、音読、朗読、暗唱をすること。
- イ 国語の変遷などについて関心を深めるため、辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較対照すること。
- ウ 古典に表れた思想や感情の特徴、表現上の特色などについて話し合うこと。
- エ 古典を読んで関心をもったことなどについて調べ、文章にまとめること。

## 古典講読

- ア 古文や漢文の調子などを味わいながら、音読、朗読をすること。
- イ 古典に表れた思想や感情などについて、感じたことや考えたことを文章にまとめたり発表したりすること。
- ウ 古典を読んで、関連する文章や作品を調べたり読み比べたりすること。

**高等学校における教科指導の充実  
国 語 科**

発 行 平成18年3月  
栃木県総合教育センター 研究調査部  
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070  
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303